

附錄 I 國有鐵道運轉規程 大正一三、一二、一九 鐵令三

改正 昭三鐵令一 同五同四 同七同二、四、五、九

國有鐵道運轉規程左ノ通定ム

國有鐵道運轉規程

第一章 總 則

第一條 國有鐵道ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 特ニ簡易ナル構造ノ鐵道ニシテ別ニ定ムル規程ニ依ルトキ
- 二 試運轉ヲ爲ス場合ニシテ本規程ニ依ルコト能ハサルトキ
- 三 其ノ他已ムコトヲ得サルトキ

第二條 列車トハ停車場外ノ本線路ヲ進行スルノ目的ヲ以テ仕立タル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

第二章 線 路

第一節 線路ノ保持

第三條 線路ハ所定ノ速度ヲ以テ列車又ハ車輛ヲ安全ニ運轉シ得ル狀態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

本線路カ一時前項ノ狀態ニ在ラサル場合ニ於テハ信號ヲ以テ之ヲ表示シ特ニ注意ヲ必要トル箇所ハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第四條 本線路ハ毎日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス

本線路ニ被害ノ虞アルトキハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第五條 新設線路、改築又ハ修繕ヲ爲シタル線路及一時使用ヲ休止シタル線路ハ検査シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ本線路ノ改築又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合及使用休止十日未滿ノ場合並側線ニ在リテハ試運轉ヲ省略スルコト

ヲ得

第二節 電力設備ノ保持

- 第六條** 列車運轉用電力設備ハ所定ノ速度ヲ以テ安全ニ列車又ハ車輛ヲ運轉シ得ル状態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス
- 第七條** 架空電車線路、第三軌條及歸線ニシテ本線路ニ係ルモノハ毎日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス
- 第八條** 架空電車線ノ支持又ハ取付部分ニシテ可撓性ヲ缺クモノハ三月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス
- 第九條** 前條ニ規定スル部分以外ノ架空電車線路、第三軌條、歸線、高壓及特別高壓用開閉器、自動遮断器、繼電器並開閉器及變壓器ニ使用スル絶縁油ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス
- 第十條** 前二條ニ規定スルモノヲ除ケノ外電力設備ハ一年以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第三節 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ノ保持

- 第十一條** 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ完全ナル状態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス
- 第十二條** 本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルトキハ之ヲ鎖錠シ又ハ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス
- 第十三條** 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ一年以内毎ニ一回其ノ各部ヲ検査スルコトヲ要ス

第四節 踏切道及障碍物

- 第十四條** 相當時間連續シテ交通頻繁ナル踏切道ニハ其ノ時間中看守人ヲ附シ列車又ハ車輛ノ通過前門扉其ノ他ノ遮斷裝置ヲ閉チ其ノ通過後之ヲ開カシムヘシ但シ自動踏切遮斷裝置又ハ通行人ニ注意ヲ喚起セシムベキ警報裝置ヲ設ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 第十五條** 建築限界内ニ物ヲ置クコトヲ得ス但シ作業上必要ニシテ運轉ニ支障ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三章 車輛

第一節 車輛ノ保持

- 第十六條** 車輛ハ安全ニ運轉シ得ル状態ニ在ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
- 第十七條** 新製車輛及修繕ヲ爲シタル車輛ハ検査シ試運轉ヲ爲スニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ改造又ハ修繕ニシテ輕易ナル場合ハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得
蒸汽機關車又ハ汽動車ノ罐ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ水壓試験ヲ行フコトヲ要ス
電氣機關車又ハ電動車ノ電氣裝置ニシテ新製ノモノ及重要ナル改造又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ絶縁耐力試験ヲ行フコトヲ要ス
- 第十八條** 蒸汽機關車及汽動車機關部ハ使用ノ状況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ撃彈機、輪軸及罐衣ヲ取外シテ各部ノ検査及罐ノ水壓試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十九條** 蒸汽機關車及汽動車ノ罐ハ使用ノ状況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ煙管ヲ取外シテ内部ヲ検査シ水壓試験ヲ行フコトヲ要ス
前項ノ期間ハ六年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第二十條** 前三條ノ水壓試験ニ於テハ罐ノ最高使用壓力ニ其ノ三割五分以上ヲ増加シタル壓力ヲ使用シ五分間以上之ヲ持続セシムルコトヲ要ス
- 第二十一條** 蒸汽機關車及汽動車ノ汽笛及辦室ノ内部、吐出管、安全擗、加減擗、給水器、給油器、計器並制動裝置ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス
- 第二十二條** 蒸汽機關車及汽動車ノ火室内部及火粉止ハ毎月少クトモ一回之ヲ検査スルコトヲ要ス
- 第二十三條** 電氣機關車及電動車電機部ハ使用ノ状況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ撃彈機及輪軸ヲ取外シテ各部ノ検査及電氣裝置ノ絶縁耐力試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ

要ス

前項ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十四條 第十七條及前條ノ絕縁耐力試験ニ於テハ最大使用電壓=其ノ五割ヲ増加シタル電壓ヲ使用シ十分間以上之ヲ持続セシムコトヲ要ス

第二十五條 電氣機關車及電動車ノ電動機、制御裝置、集電裝置、開閉器、自動遮斷器、避雷器、計器並制動裝置ハ六月以内毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十六條 電氣機關車及電動車ニ於ケル電路ト大地トノ間ノ絕縁抵抗ハ最大使用電壓ヲ以テ毎月少クトモ一回之ヲ試験スルコトヲ要ス

前項ノ試験ニ依リ算出シタル漏洩電流カ低壓ノ場合ハ所定電流ノ五千分ノ一、高壓ノ場合ハ所定電流ノ一万分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ車輛ハ修繕スルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十七條 客車、貨車並汽動車及電動車ノ機關及電機ヲ除キタル部分ハ使用ノ狀況ニ應シ相當ノ期間内毎ニ輪軸、擔彈機、連結裝置、緩衝裝置及制動裝置ヲ取外シ各部ヲ検査スルコトヲ要ス

前項ノ期間ハ旅客ノ乗用ニ供スル車輛ニ在リテハ一年半、貨物ヲ積載スル車輛ニ在リテハ三年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十八條 蒸氣機關車及汽動車機關部ニハ第十八條及第十九條ニ、電氣機關車及電動車電機部ニハ第二十三條ニ、客車、貨車並汽動車及電動車ニハ第二十七條ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月日ヲ標記スルコトヲ要ス

第二節 列車ヲ組成スル車輛ノ検査

第二十九條 列車ヲ組成スル車輛ノ運轉要部ハ車輛ノ種類及運轉ノ狀況ニ應シ相當ノ距離ヲ運轉スル毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第三十條 列車ノ貫通制動機ハ列車ヲ組成シ又ハ其ノ組成ヲ變更シタル場合ニ於テ列車出發前之ヲ試験スルコトヲ要ス

第四章 運 轉

第一節 列車ノ組成

第三十一條 列車ノ最大軸數ハ之ヲ組成スル車輛ノ臺枠及連結裝置ノ強度ニ應シ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三十二條 列車ヲ組成スル車輛ハ之ヲ相互ニ連結スルコトヲ要ス但シ千分ノ三ヨリ急ナル下リ勾配ヲ有セサル線路ヲ運轉スル列車ノ後部補助機關車ハ此ノ限ニ在ラズ自動連結器ヲ有セサル車輛ノ連結ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外螺旋連結器及連環連結器ヲ以テ二重ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第三十三條 旅客列車及一時間六十五糠ヲ超ユル速度ヲ以テ運轉スル其ノ他ノ列車ヘ貫通制動機ヲ使用シ其ノ連結軸數百ニ對シ八十以上ノ割合ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ列車ニシテ第三十七條ニ依リ貫通制動機ノ作用セサル車輛ヲ連結スル場合ニ於テハ貫通制動機ノ作用スル部分ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

連結軸數百ニ對スル制動軸數

勾配 速度一時間ニ付 2以下	1000分 ノ 2以下	1000分 ノ 4	1000分 ノ 6	1000分 ノ 8	1000分 ノ 10	1000分 ノ 12	1000分 ノ 14	1000分 ノ 16	1000分 ノ 18
	6	6	6	6	6	8	11	13	16
2 0 粋	6	6	6	6	6	8	11	13	16
2 5 粋	6	6	6	6	7	9	12	15	18
3 0 粋	6	6	6	6	9	11	14	17	20
3 5 粋	6	6	6	7	10	13	16	19	22
4 0 粋	6	6	6	9	12	15	18	22	25
4 5 粋	6	6	8	11	15	18	21	25	28
5 0 粋	6	7	10	14	18	21	24	28	31
5 5 粋	6	10	13	17	21	24	27	31	35
6 0 粋	9	13	16	20	23	27	30	34	38
6 5 粋	12	16	20	23	27	31	34	38	42

勾配 速度一時間二付	1000分 ノ 20	1000分 ノ 25	1000分 ノ 30	1000分 ノ 35	1000分 ノ 40	1000分 ノ 50	1000分 ノ 60	1000分 ノ 70
2.0 斜	18	24	31	37	44	56	69	81
2.5 斜	21	27	34	41	48	61	74	—
3.0 斜	23	30	37	44	52	65	—	—
3.5 斜	25	33	41	48	55	70	—	—
4.0 斜	28	36	44	52	60	—	—	—
4.5 斜	31	40	48	56	64	—	—	—
5.0 斜	35	43	52	60	—	—	—	—
5.5 斜	38	47	56	—	—	—	—	—
6.0 斜	42	51	60	—	—	—	—	—
6.5 斜	46	55	—	—	—	—	—	—

線路ノ勾配及列車ノ速度ニシテ本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル制動軸數ノ割合ハ挿入法ニ依リ算出ス

第一項以外ノ列車ハ線路ノ勾配及速度ニ應シ其ノ連結軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ製動軸ヲ備フルコトヲ要ス

前三項ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 勾配ハ線路上一杆ヲ距テタル二點ヲ結付クル直線ノ勾配トス
- 二 機關車ノ動輪一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ二軸ニ、炭水車ノ一軸ハ連結軸及制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス
- 三 齒軌條用齒車付電氣機關車ノ動輪一軸ハ連結軸トシテ之ヲ二軸ニ制動軸トシテ之ヲ五軸ニ換算ス
- 四 空貨車ノ一軸ハ連結軸トシテ之ヲ半軸ニ換算ス
- 五 制動力ヲ増加スル爲特ニ自重ヲ増加シタル貨車ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ一軸半ニ換算ス
- 六 車側制動機ヲ使用スル車輛ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ〇・二軸ニ換算ス

國有鐵道運轉規程

七 齒軌條用齒車付緩急車ノ一軸ハ制動軸トシテ之ヲ二軸ニ換算ス

八 制動機ヲ備フルモ其ノ取扱入ナキ車輛ノ車軸ハ制動軸トシテ之ヲ計上セス

千分ノ三ヨリ急ナル上り勾配ヲ有スル區間ヲ運轉スル列車ニ在リテハ前項ノ機關車及炭水車ヲ除キタル殘餘ノ車輛ニ對シ連結軸數ト制動軸數トノ割合ヲ第三項ノ表中一時間二十杆ノ速度ニ該當スルモノノ以上ト爲スコトヲ要ス但シ救援列車ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 列車ヲ組成スルニハ制動力ヲ其ノ全長ニ亘り成ルヘク均等ナラシムル様車輛ヲ配置スルコトヲ要ス

第三十五條 機關車、汽動車又ハ電動車ハ列車ノ前頭ニ之ヲ連結スルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 總括制御法ニ依リ列車ノ前頭ヨリ制御セラルルトキ

二 千分ノ五十ヨリ急ナル上り勾配ヲ有スル區間ヲ運轉スルトキ

三 救援列車及排雪列車ヲ運轉スルトキ

千分ノ十ヨリ急ナル上り勾配ヲ有スル區間及特ニ必要アル區間ヲ運轉スル列車並故障ヲ生シタル列車ニハ其ノ最後部ニ補助機關車ヲ使用スルコトヲ得

左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ列車ノ後部ノミニ機關車、汽動車又ハ電動車ヲ連結スルコトヲ得

一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ

二 工事列車及監視列車ヲ運轉スルトキ

三 停車場ト其ノ附近ノ採礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於テ列車ヲ運轉スルトキ

四 特殊ノ事由アルトキ

第三十六條 列車ノ後部（推進ノ場合ニ於テハ前頭）ニハ手用制動機附車輛ヲ連結シ之ニ制動機取扱入ヲ乗込マシムルコトヲ要ス但シ全部ニ貫通制動機ヲ使用スル列車、排雪列車並救援列車ハ此ノ限ニ在ラス

毀損車輛及特殊構造ノ車輛ニシテ列車ノ中部ニ連結シ得サルモノハ一輛ニ限り前項ノ後部手用制動機附車輛ノ後部ニ連結スルコトヲ得

- 第三十七條** 列車（軍用ニ専用スル列車ヲ除ク）中貨車ハ客車（廻送ノモノヲ除ク）ノ中間ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス但シ有蓋緩急車ヲ荷物車ニ代用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
旅客列車又ハ混合列車ニ在リテハ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ左ノ範囲ヲ超エテ其ノ制動機ノ作用セサル客貨車ヲ連結スルコトヲ得ス
列車ノ最大速度一時間五十糠以下 十六軸
同六十五糠以下 十二軸
同七十五糠以下 八軸
同七十五糠ヲ超ユルトキ 六軸
運轉中最後部車輛ノ貫通制動機故障ヲ生シ已ムコトヲ得サル場合ニ限ル前項以外ノ列車ニシテ一時間六十五糠ヲ超ユル速度ヲ以テ運轉スル場合ニ在リテハ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ十軸ヲ超エテ其ノ制動機ノ作用セサル客貨車ヲ連結スルコトヲ得ス
- 第三十八條** 削除
- 第三十九條** 火薬類ヲ積載シタル車輛ノ連結ニ就テハ別ニ定ム所ニ依ル
- 第四十條** 火薬類以外ノ貨物ニシテ發火、引火又ハ爆發ノ虞アルモノヲ積載シタル車輛ハ旅客ノ乗用ニ供スル車輛ヨリ四軸以上ヲ隔ツルニ非サレハ列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス
- 第四十一條** 列車ニハ列車標識ヲ掲クルコトヲ要ス

第二節 列車ノ運轉

- 第四十二條** 車輛ハ之ヲ列車ト爲スニ非サレハ停車場外ノ本線路ヲ運轉スルコトヲ得ス但シ入換ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四十三條** 上下列車ヲ區別シテ運轉スル一對ノ軌道ニ於テハ列車ノ進路ハ左側タルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 線路又ハ列車ニ故障ヲ生シタル場合ニ於テ瓦リ線ノ設アル最近ノ停車場ニ到ル退行運轉

- 二 工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉
三 後部補助機關車ノ退行運轉
四 停車場ト其ノ附近ノ採礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於ケル運轉
五 入換運轉
六 停車場内ノ運轉
- 第四十四條** 本線路ハ之ヲ閉塞區間ニ分ツコトヲ要ス但シ停車場内ノ本線路ハ之ヲ閉塞區間ト爲サルコトヲ得
單線運轉ヲ爲ス本線路ニ在リテハ列車運轉ノ方向ニ依リ閉塞區間ノ区分ヲ異ニスルコトヲ得
- 第四十五條** 一閉塞區間ニハ二以上ノ列車ヲ同時ニ運轉スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
一 第四十六條又ハ第五十條ニ依リ運轉スルトキ
二 故障列車ノ在ル閉塞區間ニ於テ救援列車ヲ運轉スルトキ
三 線路不通トナリタル閉塞區間ニ於テ工事列車ヲ運轉スルトキ
四 閉塞區間内ニ於テ後部補助機關車ヲ列車ヨリ分離シタルトキ
五 列車ノ入換若ハ誘導又ハ分割運轉ヲ爲ストキ
- 第四十六條** 閉塞區間兩端相互ノ閉塞裝置ニ故障ヲ生シ且電氣通信不可能トナリタル場合ニ於テハ列車其ノ閉塞區間ヲ出ツヘキ豫定時刻ヲ經過シタルトキハ同一方向ニ次ノ列車ヲ進入セシムルコトヲ得但シ先發列車其ノ閉塞區間ニ進入シタル後五分時ヲ經過シタル後タルコトヲ要ス
- 第四十七條** 列車ハ左ノ場合ニ限り退行スルコトヲ得
一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ
二 工事列車、監視列車、救援列車及排雪列車ノ運轉
三 後部補助機關車ノ退行運轉
四 停車場ト其ノ附近ノ採礦所、工場、材料置場等トノ間ニ於ケル運轉
五 入換運轉
六 特種ノ事由アルトキ

- 第四十八條** 二以上ノ列車ノ發着ニ際シ相互ニ其ノ進路ヲ支障スル虞アル場合ニ於テハ二以上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ出發セシムルコトヲ得ス
- 第四十九條** 列車又ハ車輛ハ停止信號ノ現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一一該當スル場合ニ於テハ速ニ停止スルコトヲ要ス
- 一 發雷信號ノ現示アリタルトキ
 - 二 入換手信號ニ依リ停止信號ノ現示アリタルトキ
 - 三 現示箇所ニ停止シ能ハサル距離ニ於テ停止信號現示アリタルトキ
- 第五十條** 列車ハ自動ノ閉塞信號機ノ停止信號現示ニ依リ停止シタル後相當時間ヲ経過シタルトキハ停止信號現示中ト雖其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得
自動ノ閉塞信號機ニ徐行許容標ヲ添設セルモノニ在リテハ其ノ信號機ニ停止信號ノ現示アル場合ト雖列車ハ停止セシシテ其ノ閉塞區間内ニ進入スルコトヲ得
- 第五十一條** 列車ハ注意信號現示アル場合ニ於テハ次ノ信號機ニ停止信號ノ現示アルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ次ノ信號機ノ設ナキトキハ注意信號ヲ現示スル信號機ノ防護スル區域内ニ停止スルコトヲ豫期シテ進行スルコトヲ得
- 第五十二條** 列車ハ進行信號現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得
- 第五十三條** 列車ハ出發合図アルニ非サレハ停車場ヲ出發スルコトヲ得ス

第三節 入 换

- 第五十四條** 列車カ隣接セル停車場又ハ信號所ヲ出發シタル後ハ其ノ列車ニ對スル場内信號機外ニ亘リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ相當ノ防護ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第五十五條** 車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ外突放ヲ爲シ又ハ重力ヲ利用シテ之ヲ入換スルコトヲ得ス
- 第五十六條** 旅客ノ乗込ミタル車輛及火薬類其ノ他ノ爆發質危險品ヲ積載シタル車輛ハ之ヲ突放シ又ハ之ニ向ツテ他ノ車輛ヲ突放スコトヲ得ス重力ヲ利用シテ入換ヲ爲ス場合亦同シ

第四節 運轉速度

- 第五十七條** 半徑六百米以下ノ曲線ニ於テハ列車ハ左ノ速度ヲ超過シテ運轉スルコトヲ得ス

曲線半徑(米)	速 度 (一時間=付杆)	
	線路ノ分歧=附帶セサル曲線ノ場合	線路ノ分歧=附帶スル曲線ノ場合
600	85	65
500	80	60
400	70	55
300	60	50
200	50	45
100	30	25

曲線半徑本表ニ掲クルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル速度ハ挿入法ニ依リ算出ス

- 第五十八條** 第五十條ニ依リ運轉スル列車速度ハ相當ニ制限スルコトヲ要ス

- 第五十九條** 列車ハ徐行信號現示セラルトキハ其ノ速度ヲ一時間十五杆以下ニ低減スルコトヲ要ス但シ其ノ速度指定シアルトキハ其ノ定ニ依ル

- 第六十條** 列車推進ノ場合ニ於ケル速度ハ一時間二十五杆ヲ超ユルコトヲ得ス但シ前部ニ附隨車二輛以内ヲ連結シ總括制御法ニ依リ前部ヨリ操縱セラル電車及排雪列車ハ此ノ限ニ在ラス

- 第六十一條** 第四十七條第一號ニ依リ列車退行スル場合ニ於ケル速度ハ一時間十五杆ヲ超ユルコトヲ得ス

- 第六十二條** 炭水車附機關車ヲ逆向シテ列車ノ前頭ニ連結シ運轉スル場合ニ於ケル速度ハ一時間四十五杆ヲ超ユルコトヲ得ス炭水車附機關車ヲ逆向シテ單行運轉ヲ爲ス場合及雪搔車ヲ機關車ノ前位ニ連結シテ廻送スル場合亦同シ

- 第六十三條** 列車又ハ車輛入換ノ速度ハ一時間二十五杆ヲ超ユルコトヲ得ス但シ機關

車、汽動車及電動車ハ此ノ限ニ在ラス

第五節 信號及合圖

第六十四條 信號ヲ現示スヘキ所定ノ場所ニ信號ノ現示ナキトキ又ハ其ノ現示正確ナラサルトキハ列車ノ運行ニ最大ノ制限ヲ附スル信號ノ現示アルモノト看做ス

常置信號機ト手信號トカ異リタル信號ヲ現示スルトキハ列車ハ其ノ運行ニ大ナル制限ヲ附スルモノニ依ルコトヲ要ス但シ豫メ通告アリタルトキハ手信號ノ現示ニ依ル

第六十五條 列車又ハ車輛ノ進路ニ支障ナキ場合ニ非サレハ之ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示スルコトヲ得ス

第六十六條 列車又ハ車輛ニ對シ進行ヲ指示スル信號ノ現示アル場合ニ於テハ其ノ進路ヲ支障スルコトヲ得ス

第六十七條 遠方信號機ハ其ノ主體ノ信號機停止信號ヲ現示スルトキハ注意信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第六十八條 場内信號機ノ設アル停車場ニ於テ之ヲ通過スヘキ列車ヲ停止セシムトスル場合ニ於テ出發信號機ノ遠方信號機又ハ之ニ相當スル信號機ノ設ナキトキハ場内信號機ニ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス但シ豫メ通告シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十九條 線路ニ支障アル爲列車ヲ停止セシムトスル場合ニ於テ常置信號機ヲ使用シ得サルトキハ支障箇所ノ外方二百米以上ノ地點ニ臨時信號機又ハ手信號ニ依リ停止信號ヲ現示シ且豫メ之ヲ通告セサルトキハ現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス

列車故障ノ爲途中ニ停止シ他ノ列車ヲ停止セシムルヲ要スル場合ハ相當防護ノ手段ヲ爲スコトヲ要ス

第七十條 列車ヲ徐行セシムトスル場合ニ於テハ徐行區間ノ始端ニ臨時信號機又ハ手信號ニ依リ徐行信號ヲ現示シ且豫メ之ヲ通告セサルトキハ徐行信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ徐行區域ノ終端ニ臨時信號機ニ依リ徐行解除信號ヲ、又ハ手信

國有鐵道運轉規程

號ニ依リ進行信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第七十一條 天候ノ状態ニ依リ百米ノ距離ヨリ信號ノ現示ヲ認識シ難キ場合ニ於テ場内信號機、掩護信號機又ハ閉塞信號機（自動ノ閉塞信號機ヲ除ク）停止信號ヲ現示スルトキハ其ノ信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ列車通過前信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス第六十九條ニ依リ臨時信號機又ハ手信號ノ停止信號ヲ現示スルトキ亦同シ

第七十二條 列車常置信號機ノ設アル箇所ヲ通過スル毎ニ誘導信號機ニ在リテハ信號ヲ現示セサルコトヲ、遠方信號機ニ在リテハ注意信號ヲ現示スルコトヲ、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第七十三條 左ノ各号ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ氣笛合圖ヲ爲スコトヲ要ス
一 列車（電車ヲ除ク）運轉ヲ始ムルトキ
二 列車分離其ノ他非常ノ事故ヲ生シタルトキ

第六節 停止中ノ車輛

第七十四條 本線路ニ停止中ノ車輛ニハ不測ノ運動ニ對スル防備ヲ爲シ置クコトヲ要ス側線ニ停止中ノ車輛ニシテ本線路ニ逸出スル虞アルモノニ付亦同シ

第七十五條 機關車、汽動車及電動車停止中ハ其ノ自動ヲ防止スルニ必要ナル手段ヲ施シ且動力ヲ有スル間ハ之ヲ看守スルコトヲ要ス

第五章 閉 塞

第一節 通 則

第七十六條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル

一 複線運轉ヲ爲ス場合

閉塞器式、自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式

二 單線運轉ヲ爲ス場合

通票閉塞器式、通票式、票券式ト閉塞器式若ハ通信閉塞式ト併用、自動閉塞式

又ハ聯動閉塞器式

第七十七條 事故其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得サル場合ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式

ニ依ル

一 複線運轉ヲ爲ス場合

通信閉塞式

二 單線運轉ヲ爲ス場合

指導法ト通信閉塞式又ハ閉塞器式トノ併用

但シ自動閉塞式又ハ聯動閉塞器式ニ依リ複線運轉ヲ爲ス區間ノ一軌道ニ於テ一時單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ複線運轉ノ場合ト同一方向ニ運轉スル列車ニ對シテハ指導法ト其ノ閉塞方式トノ併用ニ依ルコトヲ得

第七十八條 第四十六條ノ場合ニ於テ單線運轉ヲ爲ス區間ニハ指導法又ハ票券式ヲ施行スルコトヲ要ス

第二節 閉塞器式

第七十九條 閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第八十條 閉塞器ハ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

一 列車閉塞區間ニ無シ

二 列車閉塞區間ニ在リ

第八十一條 閉塞器ハ列車ヲ進入セシメタル停車場又ハ信號所ニ於テ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十二條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ承認ハ標識ニ依リ之ヲ表示スルコトヲ要ス但シ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第八十三條 前條ノ承認ハ其ノ閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ラサルコトヲ確認スルニ非

サレハ之ヲ與フルコトヲ得ス

第三節 聯動閉塞器式

第八十四條 聯動閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ聯動閉塞器ヲ備フルコトヲ要ス

第八十五條 聯動閉塞器ハ信號機ト聯動シ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

一 列車閉塞區間ニ無シ

二 列車閉塞區間ニ在リ

第八十六條 聯動閉塞器ハ列車閉塞區間ニ在ルトキハ其ノ區間ノ信號機ニ他ノ列車ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示シ能ハサラシムル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十七條 聯動閉塞器ハ閉塞區間ニ進入シタル列車カ其ノ區間ヲ通過シアリタル後ニ非サレハ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハサル裝置ノモノタルコトヲ要ス

第八十八條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシメムトスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス但シ前方ノ停車場又ハ信號所ヨリ豫々其ノ承認アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八十三條ノ規定ハ前節ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第四節 自動閉塞式

第八十九條 自動閉塞式ヲ施行スル閉塞區間ノ場內信號機、出發信號機及閉塞信號機

ハ自動作用ニ依リ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノタルコトヲ要ス

一 閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

二 裝置ニ故障ヲ生シタルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

三 閉塞區間ニ在ル轉轍器カ正當ノ方位ニ在ラサルトキ又ハ分岐線若ハ交叉線ニ於ケル列車若ハ車輛カ閉塞區間ヲ支障スルトキハ停止信號ヲ現示スルコト

四 單線運轉ヲ爲ス場合ニ於テハ閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對シ進行ヲ指示
スル信號ヲ現示シタルトキハ反對ノ方向ヨリ其ノ閉塞區間ニ進入セムトスル列車
ニ對シ停止信號ヲ表示スルコト

第五節 通信閉塞式

第九十條 通信閉塞式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ハ特設ノ電話機ヲ
備フルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ他ノ電話機又ハ電信機
ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 運轉閉塞ナルトキ
- 二 特設ノ電話機ニ故障ヲ生シタルトキ
- 三 事故其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テ電話機ヲ特設シ難キトキ

第九十一條 列車ヲ閉塞區間ニ進入セシムトスルトキハ電氣通信ニ依リ前方ノ停車
場又ハ信號所ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三十八條ノ規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス

第六節 通票閉塞器式

第九十二條 通票閉塞器式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ通票閉塞
器ヲ備フルコトヲ要ス

第九十三條 通票閉塞器ハ其ノ區間專用ノ通票ヲ收容シ且電鈴ヲ備フルコトヲ要ス

第九十四條 通票閉塞器ハ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノタルコトヲ要ス

- 一 通票ハ閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニ於テ協同スルニ非サレハ之ヲ取出シ
能ハサルコト
- 二 閉塞區間兩端ニ於ケル通票閉塞器ニ收容セラタル通票ハ一箇ニ限り之ヲ取出
スコトヲ得他ノ通票ハ取出サレタル通票ヲ通票閉塞器ニ納入スルニ非サレハ之ヲ
取出シ能ハサルコト
- 三 隣接閉塞區間用ノ通票ヲ收容シ能ハサルコト

第九十五條 隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスルコトヲ要ス

第九十六條 列車ハ當該區間ノ通票ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ
得ス

第九十七條 列車ノ運轉ニ使用シタル通票ハ通票閉塞器ニ收容シタル後ニ非サレハ之
ヲ他ノ列車ノ運轉ニ使用スルコトヲ得ス

第九十八條 第八十二條第一項及第八十三條ノ規定ハ通票閉塞器式ニ之ヲ準用ス

第七節 通票式

第九十九條 通票式ヲ施行スル閉塞區間ニハ通票ヲ備フルコトヲ要ス
通票ハ一閉塞區間ニ一箇トシ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ記入スルコトヲ要ス

第一百條 第九十五條及第九十六條ノ規定ハ通票式ニ之ヲ準用ス

第八節 票券式

第一百一條 票券式ヲ施行スル場合ニ於テハ對向列車ニ對スル閉塞區間ニハ通票ヲ、其
ノ區間兩端ノ停車場ニハ通券ヲ收容シタル通票函ヲ備フルコトヲ要ス
通票ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一箇トシ之ニ其ノ區間兩端ノ停車場名ヲ記入
スルコトヲ要ス

第一百二條 通券函ハ其ノ區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得サル裝置
ノモノタルコトヲ要ス

第一百三條 隣設區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニシ、通券ハ其ノ色ヲ異ニスルコトヲ要ス

第一百四條 列車ハ當該區間ノ通票又ハ通券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スル
コトヲ得ス

第一百五條 通券ニハ其ノ區間兩端ノ停車場名、發行年月日及之ヲ使用スル列車名ヲ記
入スルコトヲ要ス

一列車ニ使用シタル通券ハ他ノ列車ニ之ヲ使用ルコトヲ得ス

第一百六條 列車ニ通券ヲ交付スルトキハ當該區間ノ通票ヲ示スコトヲ要ス
列車ハ當該區間ノ通票ヲ確認スルニ非サレハ通券ヲ受領スルコトヲ得ス

第九節 指導法

第一百七條 指導法ヲ施行スル區間ニハ指導者ヲ定ムルコトヲ要ス

指導者ハ對向列車ニ對スル一閉塞區間ニ一人トス

第一百八條 指導者ノ氏名及擔當區間ハ豫メ之ヲ關係係員ニ通告スルコトヲ要ス

指導者ハ赤色ノ腕章ヲ著クルコトヲ要ス

第一百九條 指導者ハ指導券ヲ發行スルコトヲ得

第一百十條 列車ハ當該區間ノ指導者之ニ乘込ミ又ハ指導券ヲ携帶スルニ非サレハ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第一百十一條 列車ハ指導者ヨリ直接指導券ノ交付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ受領スルコトヲ得ス

第一百十二條 第百五條ノ規定ハ指導券ニ付之ヲ準用ス

附 則

第一百十三條 本令ハ大正十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百十四條 鐵道運轉規定ハ之ヲ廢止ス

附錄 II 國有鐵道信號規程 大正一〇、一〇、一四 鐵令三

改正 大一一鐵令四 同一三同二
昭三同二 同五同五 同六同二

國有鐵道信號規程左ノ通定ム

國有鐵道信號規程

第一章 總 則

第一條 國有鐵道ニ於ケル信號、合圖及標識ノ方式ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 曇間ト夜間トニ依リ現示方式ヲ異ニスル信號、合圖及標識ハ日出ヨリ日没迄

ハ晝間ノ方式、日沒ヨリ日出迄ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ天候ノ狀態ニ依リ相當距離ヨリ晝間ノ現示ヲ認識シ難キトキハ夜間ノ方式ニ依ル

第三條 隧道内ニ於ケル信號、合圖及標識ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ長一杆以下ノ隧道内ニ於ケル列車標識ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 信 號

第一節 常置信號機

第四條 常置信號機ノ主ナル種類左ノ如シ

- 一 場內信號機 停車場ニ進入セムトスル列車ニ對スルモノ
- 二 出發信號機 停車場ヨリ進出セムトスル列車ニ對スルモノ
- 三 閉塞信號機 閉塞區間ニ進入セムトスル列車ニ對スルモノ
- 四 推護信號機 特ニ防護ヲ要スル箇所ヲ通過セムトスル列車ニ對スルモノ
- 五 遠方信號機 前四號ノ常置信號機ニ從屬シ主體ノ信號機ニ向テ進行スル列車ニ對スルモノ
- 六 誘導信號機 場內信號機又ハ出發信號機ニ停止信號ノ現示アル場合誘導ヲ受クヘキ列車ニ對スルモノ
- 七 入換信號機 入換スヘキ列車又ハ車輛ニ對スルモノ

第五條 常置信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕、色燈又ハ燈列ヲ以テ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス

一 場內信號機、出發信號機、閉塞信號機及推護信號機

三位式ニ依ル現示

二位式ニ依ル現示

腕木式 色燈式 腕木式

停止信號	{晝間 腕水平 夜間 赤色燈}	{晝間 色燈 夜間 赤色燈}	{晝間 腕水平 夜間 赤色燈}
------	--------------------	-------------------	--------------------

注意信號	{晝間 腕上向四十五度 夜間 橙黃色燈}	{晝間 橙黃色燈 夜間 }
------	-------------------------	------------------

進行信號	{晝間 腕上向九十度 夜間 綠色燈}	{晝間 綠色燈 夜間 腕下向四十五度 夜間 綠色燈}
------	-----------------------	----------------------------------

二 遠方信號機

主體ノ信號機カ三位式ニ依ル場合ノ現示			主體ノ信號機カ二位式ニ依ル場合ノ現示		
腕木式	色燈式	腕木式	腕木式	腕下向四十五度	腕水 平
注意信號 〔晝間〕腕上向四十五度 〔夜間〕橙黃色燈	〔晝間〕橙黃色燈	〔晝間〕腕水 平 〔夜間〕橙黃色燈	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈
進行信號 〔晝間〕腕上向九十度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕綠色燈	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈
三 誘導信號機					
燈列式ニ依ル現示	腕木式ニ依ル現示	色燈式ニ依ル現示	停止信號	大ナル白光	
進行信號 〔晝間〕白色燈列左下向 〔夜間〕四十五度	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕綠色燈	注意信號及進行信號	小ナル白光	
四 入換信號機			停止信號	大ナル白光	
三位式ニ依ル現示	二位式ニ依ル現示	停止信號	大ナル白光		
燈列式	腕木式	燈列式	注意信號及進行信號	小ナル白光	
停止信號 〔晝間〕白色燈列水平 〔夜間〕赤色燈	〔晝間〕腕水平 〔夜間〕赤色燈	〔晝間〕白色燈列水平 〔夜間〕白色燈列水平			
注意信號 〔晝間〕白色燈列左下向 〔夜間〕四十五度					
進行信號 〔晝間〕白色燈列 〔夜間〕垂直	〔晝間〕腕下向四十五度 〔夜間〕綠色燈	〔晝間〕白色燈列左下向 〔夜間〕四十五度			
上リ勾配區間ニ於ケル自動閉塞信號機ニハ必要ニ應シ左ノ方式ニ依リ除行許容 標ヲ添装ス					
晝間 白色線ノ群青色圓板 夜間 紫色燈					

**第六條 場內信號機、出發信號機、閉塞信號機、掩護信號機及入換信號機ハ停止信號ヲ、遠方信號機ハ注意信號ヲ現示シ誘導信號機ハ信號ヲ現示セサルヲ其ノ定位トス
但シ自動ノ閉塞信號機及其ノ遠方信號機ハ進行信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トス**

**第七條 常置信號機ノ腕ハ長方形トス但シ腕端ハ自動ノ閉塞信號機ニ在リテハ尖形、
出發信號機ノ遠方信號機ニ在リテハ橢形、其ノ他ノ遠方信號機ニ在リテハ矢筈形トス
常置信號機ノ腕ノ表面ハ遠方信號機ニ在リテハ橙黃色、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ
赤色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ遠方信號機ニ在リテハ黑色、其ノ他ノ信號機ニ在
リテハ白色線ヲ劃ス**

常置信號機ノ腕ノ背面ハ白色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ黑色線ヲ劃ス

第八條 常置信號機ノ現示ヲ夜間後方ヨリ識別スル爲用フル背面光ハ左ノ方式ニ依ル

一 遠方信號機

注意信號	大ナル白光
進行信號	小ナル白光

二 其ノ他ノ信號機

停止信號	大ナル白光
注意信號及進行信號	小ナル白光

第九條 同一柱ニ於テ同一種類ノ信號二以上ヲ現示スル場合ニ於テハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ、以下順次右方ノ線路ニ關スルモノトス但シ自動閉塞式施行區間ニ於ケル場内信號機、出發信號機又閉塞信號機ニ在リテハ最上位ノモノハ最主要ノ線路ニ關スルモノトス

第二節 臨時信號機

第十條 臨時信號機、種類及現示方式左ノ如シ

一 停止信號機

停止信號	〔晝間〕白色線ノ赤色長方形板 〔夜間〕赤色燈
------	---------------------------

二 徐行信號機

徐行信號	〔晝間〕白色線ノ橙黃色圓板 〔夜間〕橙黃色燈
------	---------------------------

三 徐行解除信號機

徐行解除信號	〔晝間〕白色線ノ綠色圓板 〔夜間〕綠色燈
--------	-------------------------

臨時信號機ノ標板ノ背面及背面光ハ白色トス但シ單線ニ於テハ徐行信號機ノ標板及
燈ノ背面ニ徐行解除信號ヲ現示スルコトヲ得

第三節 手信號

第十一條 信號機ナキ場合及之ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テ使用スル手信號ノ現

示方式左ノ如シ

停止信號	晝間 赤色旗 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク擧ケ又ハ綠色旗以外 ノ物ヲ急激ニ振リテ之ニ代フルコトヲ得
	夜間 赤色燈 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ綠色以外ノ燈ヲ急激ニ振リテ之 ニ代フルコトヲ得
進行信號	晝間 緑色旗 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ高ク擧ゲ之ニ代フルコト ヲ得
	夜間 緑色燈
徐行信號	晝間 頭上ニ高ク交叉シタル赤色旗及綠色旗
	夜間 明滅スル綠色燈

第十二條 入換ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

信號者ノ 方へ來レ	晝間 緑色旗ヲ左右ニ振ル 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ左右ニ動カシテ之ニ代フ ルコトヲ得
	夜間 緑色燈ヲ左右ニ振ル
信號者ヨ リ去レ	晝間 緑色旗ヲ上下ニ振ル 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ片腕ヲ上下ニ動カシテ之ニ代フ ルコトヲ得
	夜間 緑色燈ヲ上下ニ振ル
停止信號	晝間 赤色旗 但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク擧ゲテ之ニ代フルコ トヲ得
	夜間 赤色燈

第四節 發雷信號

第十三條 發雷信號ハ雷管ノ爆發ニ依リ停止信號ヲ現示ス

雷管ハ相當距離ヲ隔テテ二箇所以上ニ之ヲ裝置スルモノトス

第三章 合圖

第十四條 列車ノ出發合圖ハ左ノ方式ニ依ル但シ手笛吹鳴ヲ併用スルコトヲ妨ケス

晝間 片腕ヲ高ク擧ケ
夜間 緑色燈ヲ圓形ニ動カス

第十五條 保線係員ニ對シ直ニ線路ヲ検査スヘキコトヲ請求スル場合ニ於テ列車乘務

國有鐵道信號規程

員ノ爲ス合圖ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 帽又ハ其ノ他ノ物ヲ緩ニ振ル
夜間 燈ヲ緩ニ振ル

第十六條 氣笛合圖ハ左ノ方式ニ依ル

運轉ヲ始ムルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ	適度氣笛一聲
列車ノ接近ヲ告クルトキ	長緩氣笛一聲
制動機ノ緊繩ヲ促ストキ	短急氣笛三聲
制動機ノ緩解ヲ促ストキ	適度氣笛二聲
危險ヲ警告スルトキ	短急氣笛數聲
列車ノ分離シタルトキ	短急氣笛數聲及適度氣笛一聲
保線係員ヲ招集スルトキ	長緩氣笛數聲
列線防護ヲ解除ヲ告クルトキ	長緩氣笛及短急氣笛各一聲
機關車二輛以上ヲ連結スル列車退行セムトスルトキ	短急氣笛二聲及適度氣笛一聲

第四章 標識

第一節 列車標識

第十七條 列車ノ前部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 無標識但シ臨時列車（電車ヲ除ク）ニハ機關車前面ノ中央上部ニ白色圓板 一箇
夜間 機關車前面ノ中央上部ニ白色燈一箇但シ臨時列車（電車ヲ除ク）ニハ更ニ 機關車前部端梁ノ左側ニ白色燈一箇

前項ノ規定ハ機關車ヲ前頭ニ連結セサル列車ニ付之ヲ準用ス

第十八條 列車ノ後部標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色圓板一箇但シ電車ニ限リ之ヲ省略スルコ トヲ得

夜間 後部車輛ノ後部端梁ノ左側ニ赤色燈一箇
臨時列車ト同方向ニ運轉スル直前ノ列車ニハ前項ノ標識ノ外左ノ標識ヲ掲ク
晝間 後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色圓板一箇但シ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ赤色旗ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
夜間 後部車輛ノ後部端梁ノ右側ニ赤色燈一箇
第十九條 列車標識ノ圓板ハ同色綠ノ燈器ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二節 入換機關車標識

第二十條 入換機關車ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル
晝間 無標識
夜間 前部端梁ノ右側及後部端梁ノ左側ニ赤色燈各一箇

第三節 轉轍器標識

第二十一條 轉轍器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル
轉轍器定位 { 晝間 前方及後方ヘ中央ニ白色線一條ヲ横ニ劃シタル群青色圓板ニ在ルトキ | 夜間 前方及後方ヘ紫色燈
轉轍器反位 { 晝間 前方及後方ヘ中央ニ黑色線一條ヲ矢筈ニ劃シタル橙黃色矢羽形板ニ在ルトキ | 夜間 前方及後方ヘ橙黃色燈

第四節 遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識

第二十二條 遷移轉轍器、脫線轉轍器及脫線器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル
脫線セシムヘキ { 晝間 前方ヘ白色線、赤色長方形板後方ヘ白色長方形板位置ニ在ルトキ | 夜間 前方ヘ赤色燈後方ヘ白色燈
脫線セシムルコトナキ { 晝間 前方及後方ヘ中央ニ黑色線一條ヲ横ニ劃シタル橙黃色菱形板位置ニ在ルトキ | 夜間 前方及後方ヘ橙黃色燈

第五節 車止標識

第二十三條 車止ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 無標識
夜間 ×形白色燈

附 則

第二十四條 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 鐵道信號規程ハ之ヲ廢止ス

本規程施行前工事ニ着手シ又ハ竣工シタル信號機及標識等ニシテ第七條第二項、第十七條及第二十二條ノ規定ニ抵觸スルモノハ六月内ニ、第十條ノ規定ニ抵觸スルモノハ一年内ニ、第五條ノ規定ニ抵觸スルモノハ二年内ニ、第二十三條ノ規定ニ抵觸スルモノハ三年内ニ之ヲ改築スルコトヲ要ス

附錄 III 朝鮮國有鐵道運轉規程 昭和二、八 府令八二

改正 昭六、四 府令一八

朝鮮國有鐵道運轉規程左ノ通り定ム

朝鮮國有鐵道運轉規程

第一編 總 則

第一章 通 則

第一條 朝鮮國有鐵道ニ於ケル運轉ハ本令ノ定ムル所ニ依ル但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 試運轉ヲ爲ス場合ニシテ本令ニ依ルコト能ハザルトキ
- 二 其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アルトキ

第二條 本令ニ於テ列車ト稱スルハ停車場外ノ本線路ヲ進行スルノ目的ヲ以テ仕立てタル車輛又ハ車輛列ヲ謂フ

第二章 線 路

第一節 線路ノ保持

第三條 線路ハ所定ノ速度ヲ以テ列車又ハ車輛ヲ安全ニ運轉シ得ル状態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

本線路ガ一時前項ノ状態ニ在ラザル場合ニ於テハ信號ヲ以テ之ヲ表示シ特ニ注意ヲ必要トスル箇所ハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第四條 本線路ハ毎日少クトモ一回之ヲ巡視スルコトヲ要ス

本線路ニ被害ノ虞アルトキハ之ヲ監視スルコトヲ要ス

第五條 新設線路、改築又ハ修繕ヲ爲シタル線路及一時使用ヲ休止シタル線路ハ之ヲ検査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非ラザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ本線路ノ改築又ハ修繕ガ輕易ナル場合及側線ニ在リテハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第二節 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ノ保持

第六條 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ完全ナル状態ニ之ヲ保持スルコトヲ要ス

第七條 本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車ガ之ニ對向シテ通過スルトキハ之ヲ鎖錠シ又ハ其ノ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス

第八條 信號裝置、轉轍裝置及閉塞裝置ハ一年以内毎ニ一回其ノ各部ヲ検査スルコトヲ要ス

第三節 踏切道及障碍物

第九條 交通頻繁ナル踏切道ニハ完全ナル保安施設ヲ爲シ又ハ看守人ヲ置キ列車又ハ車輛ノ通過前之ヲ閉デ其ノ通過後之ヲ開カシムベシ但シ夜間交通稀ナル際ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 建築限界内ニ物ヲ置クコトヲ得ズ但シ作業上必要ニシテ運轉ニ支障ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 車 輛

第一節 車輌ノ保持

第十一條 車輌ハ安全ニ運轉シ得ル状態ニ在ルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十二條 新製車輌及改造又ハ修繕ヲ爲シタル車輌ハ之ヲ検査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ改築又ハ修繕ガ輕易ナル場合ハ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

蒸氣機關車又ハ汽動車ノ罐ニシテ新製ノモノ及重要ナル改築又ハ修繕ヲ爲シタルモノハ水壓試験ヲ行フコトヲ要ス

第十三條 蒸氣機關車及汽動車ノ機關部ハ使用ノ状況ニ應ジ相當ノ期間内毎ニ擔彈機輪及罐衣ヲ取外シテ各部ヲ検査及罐ハ水壓試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ期間ハ三年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十三條ノ二 重油機關車、輕油動車及重油動車ハ使用ノ状況ニ應ジ適當ノ時期ニ機關部其ノ他要部ヲ取外シテ各部ヲ検査及罐ハ水壓試験ヲ行ヒ試運轉ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 蒸氣機關車及汽動車ノ罐ハ使用ノ状況ニ應ジ相當ノ期間内毎ニ煙管ヲ取外シテ内部ヲ検査シ水壓試験ヲ行フコトヲ要ス
前項ノ期間ハ六年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十五條 前三條ノ水壓試験ニ於テハ罐ノ最高使用壓力ニ其ノ三割五分以上ヲ増加シタル壓力ヲ使用シ五分間以上之ヲ持續セシムルコトヲ要ス

第十六條 蒸氣機關車及汽動車ノ汽笛及瓣室ノ内部、吐出管、加減瓣並制動裝置ハ毎年少クトモ一回之ヲ検査スルコトヲ要ス

第十七條 蒸氣機關車及汽動車ノ火室ノ内部、安全瓣、給水器、給油器、計器及火粉止ハ毎月少クトモ一回之ヲ検査スルコトヲ要ス

第十八條 客車、貨車及動車ハ使用ノ状況ニ應ジ相當ノ期間内毎ニ輪軸、擔彈機、連結裝置、緩衝裝置及制動裝置ヲ取外シ各部ヲ検査スルコトヲ要ス
前項ノ期間ハ客車及動車ニ在リテハ一年半、貨車ニ在リテハ三年ヲ超ユルコトヲ得

ズ
第十九條 機關車及動車ノ機関部ニハ第十三條、第十三條ノ二又ハ第十四條ノ規定ニ依リ客車、貨車及汽動車ニハ第十八條ノ規定ニ依リ施行シタル最近検査ノ年月日ヲ標記スルコトヲ要ス

第二節 列車ヲ組成スル車輛ノ検査

第二十條 列車ヲ組成スル車輛ノ運轉要部ハ車輛ノ種類及運轉ノ状況ニ應ジ相當ノ距離ヲ運轉スル毎ニ之ヲ検査スルコトヲ要ス

第二十一條 列車ノ貫通制動機ハ列車ヲ組成シ又ハ其ノ組成ヲ變更シタル場合ニ於テ列車出發前之ヲ試験スルコトヲ要ス

第二編 運 轉

第一章 運 轉

第一節 列車ノ組成

第二十二條 列車ノ最大車數ハ之ヲ組成スル車輛ノ臺枠及連結装置ノ強度ニ應ジテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第二十三條 列車ヲ組成スル車輛ハ之ヲ相互ニ連結スルコトヲ要ス但シ下り勾配ヲ有セザル線路ヲ運轉スル場合ニ於テ列車ノ後部補助機關車ガ途中ヨリ退行スルトキハ其ノ後部補助機關車ニ附テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 列車ハ貫通制動機ヲ使用シ其ノ連結車數百ニ對シ八十以上ノ割合ノ制動裝置車輛ヲ備フルコトヲ要ス但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ前項但書ノ場合ニ於テハ列車ハ線路ノ勾配及速度ニ應ジ其ノ連結車數ニ對シ左ノ割合以上ノ手用制動機ヲ有スル車輛ヲ連結スルコトヲ要ス

第二十五條 列車ヲ組成スルニハ制動力ヲ其ノ全長ニ亘リ成ルベク均等ナラシム様車輛ヲ配置スルコトヲ要ス

連結車數百ニ對スル制動車數

勾配 第一等 第二等 第三等 四以下	1000分 ノ	1000分 6	1000分 8	1000分 10	1000分 12	1000分 14	1000分 16	1000分 18	1000分 20	1000分 25	1000分 30
	25杆	6	6	6	7	9	12	15	18	21	27
30杆	6	6	6	9	11	14	17	20	23	30	37
35杆	6	6	7	10	13	16	19	22	25	33	41
40杆	6	6	9	12	15	18	22	25	28	36	44
45杆	6	8	11	15	18	21	25	28	31	40	48
50杆	7	10	14	18	21	24	28	31	35	43	52
55杆	10	13	17	21	24	27	31	35	38	47	56
60杆	13	16	20	23	27	30	34	38	42	51	60
65杆	16	20	23	27	31	34	38	42	46	55	—

備考

- 一 本表ノ勾配ハ線路上一杆ヲ距テタル二點ヲ結附ク直線ノ勾配トス
- 二 線路ノ勾配及列車ノ速度ニシテ本表ニ掲グルモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル制動車數ノ割合ハ插入法ニ依リ算出ス

第二十六條 機關車又ハ汽動車ハ列車ノ前部ニ之ヲ連結スルコトヲ要ス但シ救援列車及排雪列車ヲ運轉スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

特ニ必要アル區間ヲ運轉スル列車及故障ヲ生ジタル列車ニハ其ノ後部(已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ其ノ中部)ニ補助機關車ヲ使用スルコトヲ得左ノ各號ノニ該當スル場合ニ於テハ列車ノ後部ノミニ機關車又ハ汽動車ヲ使用スルコトヲ得

- 一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ
- 二 工事列車及監査列車ヲ運轉スルトキ
- 三 停車場ト停車場外側線トノ間ニ列車ヲ運轉スルトキ
- 四 特殊ノ事由アルトキ

第二十七條 貫通制動機ヲ使用スル列車ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ其ノ前部)ニハ車掌鑰、空氣壓力計及手用制動機付車輛ヲ、列車ノ全部又ハ一部ニ貫通制動機ヲ使

用セザル列車ノ後部（推進ノ場合ニ於テハ其ノ前部）ニハ手用制動機附車輛ヲ連結シ之ニ制動機取扱者ヲ乗込マシムルコトヲ要ス但シ鐵道局長ノ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

破損車輛及特殊車輛ニシテ列車ノ中部ニ連結シ得ザルモノハ一車ニ限リ前項車輛ノ後部ニ之ヲ連結スルコトヲ得

第二十八條 列車中貨車ハ客車（廻送ノモノヲ除ク）ノ中間ニ之ヲ連結スルコトヲ得ズ但シ特種ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 破損車輛、動力ヲ有セザル機關車又ハ二車以上ニ跨ル貨物ヲ積載シタル貨車ハ旅客列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ズ

第三十條 火薬類ヲ積載シタル車輛ノ連結ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十一條 火薬類以外ノ貨物ニシテ發火、引火又ハ爆發ノ虞アルモノヲ積載シタル車輛ハ旅客ノ乗用ニ供用スル車輛ヨリ一車以上ヲ隔ツルニ非ザレバ列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ズ但シ軍用ニ專用スル列車ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第二節 列車ノ運行

第三十二條 車輛ハ之ヲ列車ト爲スニ非ザレバ停車場外ノ本線路ヲ運轉スルコトヲ得ズ但シ入換ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 上下列車ヲ區別シテ運轉スル一對ノ軌道ニ於テハ列車ノ進路ハ左側タルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一一該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 線路又ハ列車ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ互リ線ノ設アル最近ノ停車場ニ到ル
退行運轉

二 工事列車、監査列車、救援列車及排雪列車ノ運轉

三 後部補助機關車ノ退行運轉

四 停車場ト停車場外側線トノ間ニ列車ヲ運轉スルトキ

五 入換運轉

六 特殊ノ場合ニ於ケル停車場内ノ運轉

第三十四條 本線路ハ之ヲ閉塞區間ニ分ツコトヲ要ス但シ停車場内ノ本線路ハ之ヲ閉

塞區間ト爲サザルコトヲ得

第三十五條 一閉塞區間ニハ二以上ノ列車ヲ同時ニ運轉スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一一該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 第三十六條ノ規定ニ依リ運轉スルトキ

二 故障列車ノ在ル閉塞區間ニ於テ救援列車ヲ運轉スルトキ

三 線路不通ト爲リタル閉塞區間ニ於テ工事列車ヲ運轉スルトキ

四 閉塞區間内ニ於テ後部補助機關車ヲ列車ヨリ切離シタルトキ

五 列車ノ入換又ハ誘導ヲ爲ストキ

第三十六條 閉塞區間兩端相互間ノ閉塞裝置ニ故障ヲ生ジ且電氣通信不可能ト爲リタル場合ニ於テハ列車ガ其ノ閉塞區間ヲ出ヅベキ豫定時刻ヨリ三分時ヲ経過シタルトキハ同一方向ニ次ノ列車ヲ進入セシムルコトヲ得

第三十七條 列車ハ左ノ各號ノ一一該當スル場合ニ限リ退行スルコトヲ得

一 線路又ハ列車ニ故障アルトキ

二 工事列車、監査列車、救援列車及排雪列車ノ運轉

三 後部補助機關車ノ退行運轉

四 停車場ト停車場外側線トノ間ニ列車ヲ運轉スルトキ

五 入換運轉

六 特殊ノ事由アルトキ

第三十八條 二以上ノ列車ノ發著ニ際シ相互ニ其ノ進路ヲ支障スル虞アル場合ニ於テハ二以上ノ列車ヲ同時ニ進入又ハ進出セシムルコトヲ得ズ但シ特殊ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條 列車又ハ車輛ハ停止信號ノ現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一一該當スル場合ニ於テハ速ニ停止スルコトヲ要ス

一 發雷信號ノ現示アリタルトキ

二 入換手信號ニ依リ停止信號ノ現示アリタルトキ

三 現示箇所ニ停止シ能ハザル距離ニ於テ停止信號ノ現示アリタルトキ

第四十條 列車ハ注意信號現示アル場合ニ於テハ次ノ信號機ニ停止信號ノ現示アルコ

トヲ豫期シテ進行スルコトヲ得

第四十一條 列車ハ進行信號現示アルトキハ其ノ現示箇所ヲ超エテ進行スルコトヲ得

第四十二條 列車ハ出發合図アルニ非ザレバ停車場ヲ出發スルコトヲ得ズ

第三節 入換

第四十三條 列車ガ隣接セル停車場又ハ信號所ヲ出發シタル後ハ其ノ列車ニ對スル場内信號機外ニ亘リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ相當ノ防護ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 車輛ハ適當ニ制動セラレ得ル場合ヲ除クノ外突放ヲ爲シ又ハ重力ヲ利用シテ之ヲ入換スルコトヲ得ズ

第四十五條 旅客ノ乗込ミタル車輛及火薬類其ノ他ノ爆發質危險品ヲ積載シタル車輛ハ之ヲ突放シ又ハ之ニ向ツテ他ノ車輛ヲ突放スコトヲ得ズ
重力ヲ利用シテ入換ヲ爲ス場合之ニ準ズ

第四節 運轉速度

第四十六條 列車ハ車輛及線路ノ構造及強度ニ應ズル速度ヲ以テ運轉スルコトヲ要ス

第四十七條 列車ハ徐行信號現示セラルトキハ其ノ速度ヲ一時間十五杆以下ニ低減スルコトヲ要ス 但シ徐行速度ヲ指定シアルトキハ其ノ定ニ依ル

第四十八條 列車推進ノ場合ニ於ケル速度ハ一時間二十五杆ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十九條 第三十七條第一號ノ規定ニ依リ列車ガ退行スル場合ニ於ケル速度ハ一時間十五杆ヲ超ユルコト得ズ

第五十條 炭水車附機關車ヲ逆向シテ列車ノ前部ニ連結シ運轉スル場合ニ於ケル速度ハ一時間五十五杆ヲ超ユルコトヲ得ズ炭水車附機關車ヲ逆向シテ單行運轉ヲ爲ス場合及雪搔車ヲ機關車ノ前位ニ連結シテ廻送スル場合亦同ジ

第五十一條 列車又ハ車輛ノ入換速度ハ一時間二十五杆ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五節 留置車輛

第五十二條 本線路ニ留置ノ車輛ニハ不測ノ轉動ニ對スル防備ヲ爲シ置クコトヲ要ス
側線ニ留置ノ車輛ニシテ本線路ニ逸出スル虞アルモノニ付亦同ジ

第五十三條 留置セル機關車及動車ニハ其ノ自動ヲ防止スルニ必要ナル手段ヲ施シ且
動力ヲ有スル間ハ之ヲ看守スルコトヲ要ス

第二章 閉塞

第一節 通則

第五十四條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル

一 複線運轉ヲ爲ス場合

双信閉塞機式

二 單線運轉ヲ爲ス場合

通票閉塞機式

通票式

通信閉塞式

票券式ト通信閉塞式トノ併用

第五十五條 事故其ノ他ノ事由ニ因リ已ムコトヲ得ザル場合ニ於ケル閉塞ハ左ノ方式ニ依ル

一 複線運轉ヲ爲ス場合

通信閉塞式

二 單線運轉ヲ爲ス場合

指導法(此ノ場合ハ指導券ヲ發行セズ)

指導法ト通信閉塞式トノ併用

第五十六條 第三十六條ノ場合ニ於テ單線運轉ヲ爲ス區間ニハ指導法又ハ票券式ヲ施行スルコトヲ要ス

第二節 双信閉塞機式

第五十七條 双信閉塞機式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ双信閉塞機ヲ備フルコトヲ要ス。

第五十八條 双信閉塞機ハ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス。

- 一 列車閉塞區間ニ無シ
- 二 列車閉塞區間ニ在リ

第五十九條 双信閉塞機ハ列車ヲ閉塞區間に進入セシメタル停車場又ハ信號所ニ於テ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ變更シ能ハザル裝置ノモノタルコトヲ要ス。

第六十條 列車ヲ閉塞區間に進入セシメントスルトキハ「列車閉塞區間ニ無シ」ノ表示ヲ確認シ前方ノ停車場又ハ信號所ニ「列車進入シ得ルヤ」ノ電鈴合圖ヲ爲シ承認ヲ受クルコトヲ要ス。

前項ノ承認ハ標識ニ依リ之ヲ表示スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ「列車閉塞區間ニ在リ」ノ表示ヲ以テ之ヲ爲スモノトス。

第六十一條 前條ノ承認ハ其ノ閉塞區間ニ列車又ハ車輛在ルトキハ之ヲ與フルコトヲ得ズ。

第三節 通信閉塞式

第六十二條 通信閉塞式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場又ハ信號所ニハ専用ノ電話機ヲ備フルコトヲ要ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ他ノ電話機又ハ電信機ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得。

- 一 運轉開散ナル區間
- 二 専用ノ電話機ニ故障ヲ生ジタルトキ
- 三 事故其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ専用ノ電話機ヲ設置シ難キトキ

第六十三條 列車ヲ閉塞區間に進入セシメントスルトキハ電氣通信ニ依リ前方ノ停車

朝鮮國有鐵道運轉規程

場又ハ信號所ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス。

第六十一條 規定ハ前項ノ承認ニ付之ヲ準用ス。

第四節 通票閉塞機式

第六十四條 通票閉塞機式ヲ施行スル閉塞區間兩端ノ停車場ニハ通票閉塞機ヲ備フルコトヲ要ス。

第六十五條 通票閉塞機ハ其ノ區間専用ノ通票ヲ收容シ標識ヲ以テ左ノ表示ヲ爲シ得ル裝置トシ電鈴ヲ備フルコトヲ要ス。

- 一 列車閉塞區間ニ無シ
- 二 列車閉塞區間ニ在リ

第六十六條 通票閉塞機ハ左ノ條件ヲ具備スル裝置ノモノタルコトヲ要ス。

- 一 通票ハ閉塞區間兩端ノ停車場ニ於テ協同シテ取扱フニ非ザレバ之ヲ取出シ能ハザルコト
- 二 閉塞區間兩端ニ於ケル通票閉塞機ニ收容セラレタル通票ハ一箇ニ限リ之ヲ取出スコトヲ得他ノ通票ハ取出サレタル通票ヲ通票閉塞機ニ納入スルニ非ザレバ之ヲ取出シ能ハザルコト
- 三 隣接閉塞區間ノ通票ヲ收容シ能ハザルコト

第六十七條 隣接閉塞區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニスルコトヲ要ス。

第六十八條 列車ハ當該區間ノ通票ヲ携帶スルニ非ザレバ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ズ。

第六十九條 列車ノ運轉ニ使用シタル通票ハ通票閉塞機ニ收容シタル後ニ非ザレバ之ヲ他ノ列車ノ運轉ニ使用スルコトヲ得。

第七十條 第六十條及第六十一條ノ規定ハ通票閉塞機式ニ之ヲ準用ス。

第五節 通票式

第七十一條 通票式ヲ施行スル各閉塞區間にハ通票一箇ヲ備フルコトヲ要ス。

第七十二條 第六十七條及第六十八條ノ規定ハ通票式ニ之ヲ準用ス。

第六節 票券式

- 第七十三條** 票券式ヲ施行スル各閉塞區間ニハ通票一箇ヲ備ヘ、其ノ區間兩端ノ停車場ニハ通券ヲ收容シタル通券函ヲ備フルコトヲ要ス
- 第七十四條** 通券函ハ其ノ區間ノ通票ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ開ケコトヲ得ザル裝置ノモノタルコトヲ要ス
- 第七十五條** 隣接區間ノ通票ハ其ノ形狀ヲ異ニシ、通券ハ其ノ色ヲ異ニスルコトヲ要ス
- 第七十六條** 列車ハ當該區間ノ通票又ハ通券ヲ携帶スルニ非ザレバ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ズ
- 第七十七條** 通券ニハ其ノ區間兩端ノ停車場名、發行年月日及之ヲ使用スル列車名ヲ記入スルコトヲ要ス
一列車ニ使用シタル通券ハ他ノ列車ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第七十八條** 列車ニ通券ヲ授與セントスルトキハ當該區間ノ通票ヲ示スコトヲ要ス
列車ハ當該區間ノ通票ヲ確認シタル後ニ非ザレバ通券ヲ受領スルコトヲ得ズ

第七節 指導法

- 第七十九條** 指導法ヲ施行スル區間ニハ指導者ヲ定ムルコトヲ要ス
指導者ハ一閉塞區間一人トス
- 第八十條** 指導者ノ氏名及其ノ擔當區間ハ豫メ之ヲ關係係員ニ通告スルコトヲ要ス
指導者ハ赤色ノ腕章ヲ著クルコトヲ要ス
- 第八十一條** 指導券ハ指導者之ヲ發行スルコトヲ要ス
- 第八十二條** 列車ハ當該區間ノ指導者之ニ乘込ムカ又ハ指導券ヲ携帶スルニ非ザレバ
其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ズ
- 第八十三條** 指導券ハ指導者ヨリ直接ニ列車ニ之ヲ授與スルコトヲ要ス
- 第八十四條** 第七十七條ノ規定ハ指導券ニ之ヲ準用ス

第三章 信 號

第一節 通 則

- 第八十五條** 曇間ト夜間トニ依リ現示方式ヲ異ニスル信號、合圖及標識ハ日出ヨリ日沒迄ハ晝間ノ方式ニ、日沒ヨリ日出迄ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ天候ノ状態ニ依リ相當距離ヨリ晝間ノ方式ニ依ル信號、合圖又ハ標識ヲ認識シ難キトキハ夜間ノ方式ニ依ル
- 第八十六條** 隧道内ニ於ケル信號、合圖及標識ハ夜間ノ方式ニ依ル但シ延長大ナラザル隧道内ニ於ケル列車標識ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八十七條** 信號ヲ現示スベキ所定ノ場所ニ信號ノ現示ナキトキ又ハ其ノ現示正確ナラザルトキハ列車ノ運行ニ大ナル制限ヲ附スル信號ノ現示アルモノト看做ス
常置信號機又ハ臨時信號機ト手信號トガ異リタル信號ヲ現示スルトキハ列車ハ其ノ運行ニ大ナル制限ヲ附スルモノニ依ルコトヲ要ス但シ豫メ通告アリタルトキハ手信號ノ現示ニ依ル

- 第八十八條** 列車又ハ車輛ノ進路ニ支障ナキ場合ニ非ザレバ之ニ對シ進行ヲ指示スル信號ヲ現示スルコトヲ得ズ
- 第八十九條** 列車又ハ車輛ニ對シ進行ヲ指示スル信號ノ現示アル場合ニ於テハ其ノ進路ニ支障スルコトヲ得ズ

第二節 常置信號機

- 第九十條** 常置信號機ハ一定ノ場所ニ於テ腕又ハ燈ニ依リ信號ヲ現示シ列車又ハ車輛ニ對シ進行ノ條件ヲ指示ス
- 第九十一條** 常置信號機ノ主ナル種類左ノ如シ
 一 場內信號機 停車場ニ進入セントスル列車ニ對スルモノ
 二 出發信號機 停車場ヨリ進出セントスル列車ニ對スルモノ
 三 掩護信號機 特ニ防護ヲ要スル箇所ヲ通過セントスル列車ニ對スルモノ

- 四 遠方信號機 前三號ノ常置信號機ニ從屬シ主體ノ信號機ニ向テ進行スル列車ニ對スルモノ
- 五 誘導信號機 場内信號機又ハ出發信號機ノ停止信號現示ニ依リ停止ノ誘導ヲ受クベキ列車ニ對スルモノ
- 六 入換信號機 入換スペキ列車又ハ車輛ニ對スルモノ
- 第九十二條** 常置信號機ハ向テ之ヲ視ルトキ左腕又ハ燈色ヲ以テ左ノ方式ニ依リ信號ヲ現示ス
- 一 場内信號機 出發信號機、掩護信號機及入換信號機
- | | |
|------|----------------------|
| 停止信號 | 晝間 腕水平
夜間 赤色燈 |
| 進行信號 | 晝間 腕下向四十五度
夜間 綠色燈 |
- 二 遠方信號機
- | | |
|------|----------------------|
| 注意信號 | 晝間 腕水平
夜間 橙黃色燈 |
| 進行信號 | 晝間 腕下向四十五度
夜間 綠色燈 |
- 三 誘導信號機
- | | |
|------|----------------------|
| 進行信號 | 晝間 腕下向四十五度
夜間 綠色燈 |
|------|----------------------|
- 第九十三條** 場内信號機、出發信號機、掩護信號機及入換信號機ハ停止信號ヲ、遠方信號機ハ注意信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トシ誘導信號機ハ信號ヲ現示セザルヲ其ノ定位トス
- 第九十四條** 常置信號機ノ腕ハ長方形トス但シ腕端ハ出發信號機ノ遠方信號機ニ在リテハ橢形、其ノ他ノ遠方信號ニ在リテハ矢筈形トス
- 常置信號機ノ腕ノ表面ハ遠方信號機ニ在リテハ橙黃色、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ赤色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ遠方信號機ニ在リテハ黑色線、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ白色線ヲ劃ス
- 常置信號機ノ腕ノ背面ハ白色トシ腕端ニ近ク之ト並行シテ黑色線ヲ劃ス
- 第九十五條** 常置信號機ノ現示ヲ夜間後方ヨリ識別スル爲用フル背面光ハ左ノ方式ニ

依ル

一 遠方信號機

注意信號 大ナル白光

進行信號 小ナル白光

二 其ノ他ノ信號機

停止信號 大ナル白光

進行信號 小ナル白光

第九十六條 一柱ニ同種類ノ信號二以上ヲ現示スル場合ニ於テハ最高位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ、以下順次右方ノ線路ニ對スルモノトス

第九十七條 遠方信號機ハ其ノ主體ノ信號機ニ停止信號ヲ現示スルトキハ注意信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第九十八條 場内信號機ノ設アル停車場ニ於テ之ヲ通過スペキ列車ヲ停止セシメントスル場合ニ於テ出發信號機ノ遠方信號機又ハ之ニ相當スル信號機ノ設ナキトキハ場内信號機ニ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス但シ豫メ通告シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十九條 列車ガ常置信號機ノ設アル箇所ヲ通過シタル場合ニ於テハ其ノ通過ノ都度誘導信號機ニ在リテハ信號ヲ現示セザルコトヲ、遠方信號機ニ在リテハ注意信號ヲ現示スルコトヲ、其ノ他ノ信號機ニ在リテハ停止信號ヲ現示スルコトヲ要ス

第一百條 天候ノ状態ニ依リ二百米ノ距離ヨリ信號ノ現示ヲ認識シ難キ場合ニ於テ場内信號機又ハ掩護信號機ガ停止信號ヲ現示スルトキハ其ノ信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ列車ノ通過前信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス第一條又ハ第百五條ノ規定ニ依ル臨時信號機又ハ手信號ガ停止信號ヲ現示スルトキ亦同ジ

第三節 臨時信號機

第一百一條 線路ノ状態ガ一時平常運轉ヲ許サザル場合ニ於テ列車ノ停止ヲ要スル箇所又ハ其ノ徐行ヲ要スル區域ノ外方ニハ臨時信號機ヲ設置スルコトヲ要ス

第一百二條 臨時信號機ノ種類及現示方式左ノ如シ

一 停止信號機

停止信號 $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 白色縁ノ赤色長方形板} \\ \text{夜間 赤色燈} \end{array} \right.$

二 徐行信號機

徐行信號 $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 白色縁ノ橙黃色圓板} \\ \text{夜間 橙黃色燈} \end{array} \right.$

三 徐行解除信號機

徐行解除信號 $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 白色縁ノ綠色圓板} \\ \text{夜間 綠色燈} \end{array} \right.$

臨時信號機ノ標板ノ背面及背面光ハ白色トス但シ單線ニ於テハ徐行信號機ノ標板及燈ノ背面ニ徐行解除信號ヲ現示スルコトヲ得

第百三條 臨時信號機ハ左ノ位置ニ設置スルコトヲ要ス

停止信號機

支障箇所ノ外方二百米以上ノ地點

徐行信號機

徐行區域ノ始端

徐行解除信號機

徐行區域ノ終端

臨時信號機ノ設置ヲ豫メ通告セザル場合ニ於テハ停止信號機ニ在リテハ停止信號現示箇所ノ外方、徐行信號機ニ在リテハ徐行信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス

第四節 手信號

第百四條 信號機ナキ場合及之ヲ用フルコト能ハザル場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

停止信號 $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 赤色旗} \\ \text{但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク舉ゲ又ハ綠色旗以外ノ物ヲ急激ニ振リテ之ニ代フルコトヲ得} \\ \text{夜間 赤色燈} \\ \text{但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ綠色燈以外ノ燈ヲ急激ニ振リテ之ニ代フルコトヲ得} \end{array} \right.$

進行信號 $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 綠色旗} \\ \text{但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ片腕ヲ高ク舉ゲテ之ニ代フルコトヲ得} \\ \text{夜間 綠色燈} \end{array} \right.$

徐行信號 $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 頭上ニ高ク交叉シタル赤色旗及綠色旗} \\ \text{夜間 明滅スル綠色燈} \end{array} \right.$

第百五條 線路ニ支障アル爲列車ヲ停止又ハ徐行セシメントスル場合臨時信號機ニ依ルコト能ハザルトキハ手信號ヲ以テ左ノ防護ヲ爲スベシ

一 停止セシムル場合

支障箇所ノ外方二百米以上ノ地點ニ停止手信號ヲ現示シ且豫メ之ヲ通告セザルトキハ停止手信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス列車故障ノ爲途中ニ停止シ他ノ列車ヲ停止セシムルコトヲ要スル場合ニ於テハ相當防護ノ手段ヲ爲スコトヲ要ス

二 徐行セシムル場合

徐行區域ノ始端ニ徐行手信號ヲ、徐行區域ノ終端ニ進行手信號ヲ現示シ且豫メ之ヲ通告セザルトキハ徐行手信號現示箇所ノ外方相當ノ距離ニ信號用雷管ヲ裝置スルコトヲ要ス

第百六條 入換ヲ爲ス場合ニ於テ使用スル手信號ノ現示方式左ノ如シ

信號者ノ $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 綠色旗ヲ左右ニ振ル} \\ \text{但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ片腕ヲ左右ニ動カシテ之ニ代フルコトヲ得} \\ \text{夜間 綠色燈ヲ左右ニ振ル} \end{array} \right.$

信號者ヨリ去レ $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 綠色旗ヲ上下ニ振ル} \\ \text{但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ片腕ヲ上下ニ動カシテ之ニ代フルコトヲ得} \\ \text{夜間 綠色燈ヲ上下ニ振ル} \end{array} \right.$

停止信號 $\left\{ \begin{array}{l} \text{晝間 赤色旗} \\ \text{但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ兩腕ヲ高ク舉ゲテ之ニ代フルコトヲ得} \\ \text{夜間 赤色燈} \end{array} \right.$

第五節 發雷信號

第百七條 發雷信號ハ雷管ノ爆音ニ依リテ停止信號ヲ現示ス

雷管ハ相當ノ距離ヲ隔テテ四箇以上之ヲ装置スルモノトス

第六節 合圖

第一百八條 機關士ニ對スル列車ノ出發合圖ハ左ノ方式ニ依ル但シ鐵道局長ノ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ズ

驛長ノ爲ス場合

晝間 片腕ヲ高ク擧グ

夜間 緑色燈ヲ高ク圓形ニ動カス

車掌ノ爲ス場合

晝間 綠色旗ヲ高ク圓形ニ動カス

夜間 綠色燈ヲ高ク圓形ニ動カス

前項ノ出發合圖ハ必要ニ應ジロ頭通告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百九條 保線員ニ對シ直ニ線路ヲ検査スペキコトヲ通告スル場合ニ於テ列車乗務者

ノ爲ス合圖ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 帽又ハ其ノ他ノ物ヲ緩ニ振ル

夜間 白色ノ燈火ヲ緩ニ振ル

第一百十條 氣笛合圖ハ左ノ方式ニ依ル

運轉ヲ始ムルトキ

適度氣笛一聲

列車ノ接近ヲ告グルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ

長緩氣笛一聲

制動機ノ緊締ヲ促ストキ

短急氣笛三聲

制動機ノ緩解ヲ促ストキ

適度氣笛二聲

危險ヲ警告スルトキ又ハ列車ノ分離其ノ他ノ非常事故ヲ生ジタルトキ

短急氣笛數聲

保線係員ヲ招集スルトキ

長緩氣笛數聲

列車防護ノ解除ヲ告グルトキ

長緩氣笛及短急氣笛各一聲

機關車二車以上ヲ連結スル列車退行セントスルトキ

短急氣笛二聲及適度氣笛一聲

朝鮮國有鐵道運轉規程

第一百十一條 左ノ各號ノ一一該當スル場合ニ於テハ氣笛合圖ヲ爲スコトヲ要ス

一 列車運轉ヲ始ムルトキ

二 列車分離其ノ他ノ非常事故ヲ生ジタルトキ

三 停車場ニ近ヅキタルトキ

第七節 標識

第一百十二條 列車ニハ列車標識ヲ掲グルコトヲ要ス

第一百十三條 列車ノ前部ニ掲グル標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 標識ヲ掲ゲズ

但シ臨時ニ運轉スル列車ニハ機關車ノ前部緩衝梁ノ左側ニ白色圓板一箇

夜間 機關車ノ前頭ノ中央上部ニ白色燈一箇

但シ臨時ニ運轉スル列車ニハ更ニ其ノ緩衝梁ノ左側ニ白色燈一箇

前項ノ標識ハ機關車ヲ逆向シテ運轉スル列車又ハ機關車ヲ前部ニ連結セザル列車ニ在リテハ其ノ前部ノ車輛ノ前面相當ノ位置ニ之ヲ掲ゲベシ但シ已ムコトヲ得ザル場合ハ前面適宜ノ位置ニ之ヲ掲グルコトヲ得

第一百十四條 列車ノ後部ニ掲グル標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 後部車輛ノ兩側上部ニ前方白色、後方赤色ノ圓板各一箇

夜間 後部車輛ノ兩側上部ニ前方白色、後方赤色ノ燈各一箇

前項ノ標識ハ列車ノ後部ニ機關車、破損車輛又ハ特殊構造ノ車輛ヲ連結シタル場合ニ於テハ其ノ直前ノ車輛ニ之ヲ掲グルコトヲ得

救援列車及動車ニ在リテハ後部緩衝梁ノ左側ニ晝間ハ赤色ノ圓板、夜間ハ赤色ノ燈各一箇ヲ掲ゲ第一項ノ標識ニ代フルコトヲ得已ムコトヲ得ザル場合亦同ジ

第一百十五條 列車標識ノ圓板ハ同色ノ燈ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ燈ニハ點火セザルコトヲ得

第一百十六條 入換機關車ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

晝間 標識ヲ掲ゲズ

夜間 前部緩衝梁ノ右側及後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈各一箇

第一百七條 転轍器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

転轍器定位ニ在ルトキ

晝間 前方及後方へ中央=白色線一條ヲ横ニ割シタル群青色圓板

夜間 前方及後方へ紫色燈

転轍器反位ニ在ルトキ

晝間 前方及後方へ中央=黑色線一條ヲ矢筈ニ割シタル橙黃色矢羽形板

夜間 前方及後方へ橙黃色燈

第一百八條 脱線轉轍器ノ標識ハ左ノ方式ニ依ル

脱線セシムベキ位置ニ在ルトキ

晝間 前方及後方へ白色線ノ赤色長方形板

夜間 前方及後方へ赤色燈

脱線セシムルコトナキ位置ニ在ルトキ

晝間 前方及後方へ白色線ノ綠色圓板

夜間 前方及後方へ綠色燈

第一百九條 車止ノ標識ハ×形白色燈（晝間ハ點燈セズ）ヲ以テ表示ス

附 則

本令ハ昭和二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ昭和六年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附錄 IV 國有鐵道簡易線運轉規程 昭七、五、二七 鐵令一〇

改正 昭七 鐵令一三

國有鐵道簡易線運轉規程左ノ通定ム

國有鐵道簡易線運轉規程

第一條 國有鐵道簡易線ニ於ケル運轉ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本規程ニ規定セザル事項ハ國有鐵道運轉規程ノ定ムル所ニ依ル

第三條 列車ノ最大軸數ハ機關車ヲ除キ之ヲ二十軸トス但シ特ニ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 列車ハ貫通制動機ヲ使用シ機關車ヲ除キ其ノ連結現軸數百ニ對シ旅客列車ハ八十以上其ノ他ノ列車ハ五十以上ノ割合ノ制動現軸ヲ備フルコトヲ要ス但シ必要ニ應ジ貫通制動機ノ作用スル車輛ノ後部ニ其ノ制動機ノ作用セザル車輛ヲ連結スルコトヲ得

特種ノ事由アル場合ハ貫通制動機ノ作用セザル列車ヲ運轉スルコトヲ得

第一項但書ノ列車ニ於ケル貫通制動機ノ作用セザル部分及第二項ノ列車ニ於テハ線路ノ勾配ニ應ジ其ノ連結軸數ニ對シ左ノ割合以上ノ制動軸ヲ備フルコトヲ要ス

連結軸數百ニ對スル制動軸數

線路ノ勾配 ノ 10以下	1000分 ノ 12	1000分 ノ 14	1000分 ノ 16	1000分 ノ 18	1000分 ノ 20	1000分 ノ 25	1000分 ノ 30	1000分 ノ 35	
制動軸數	6	8	11	13	16	18	24	31	37

線路ノ勾配ニシテ本表ニ掲グモノノ中間ニ在ル場合ニ於ケル制動軸數ノ割合ハ插入法ニ依リ算出ス

第五條 列車ノ後部（推進ノ場合ニ於テハ前頭）ニハ制動筒附車輛ヲ連結スルコトヲ

要ス

前條第一項但書及同條第二項ノ列車ニハ其ノ後部(推進ノ場合ニ於テハ前頭)ニ緩急車ヲ連結シ之ニ車掌ヲ乗務セシムベシ
 前二項ノ場合ニ於テ列車ノ後部ニ制動機ノ作用セザル貨車又ハ回送車輛ハ一軸ニ限り之ヲ連結スルコトヲ得
第六條 列車ノ後部標識ハ之ヲ掲ゲザルコトヲ得但シ左ノ各號ノ列車ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ
 一 臨時列車ノ運轉ヲ豫メ關係ノ向ニ通告スル能ハザル場合ニ於テ之ニ先チ同方向ニ運轉スル直前ノ列車
 二 事故ノ爲隔時法ニ依リ運轉スル列車
第七條 安全側線又ハ脫線裝置等ノ設備ナキ停車場ニ於テハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ上下列車ヲ同時ニ進入セシムルコトヲ得
 一 上下列車ガ何レモ貫通制動機ヲ使用スルトキ
 二 最遠轉轍器外八十米以内ニ千分ノ十ヨリ急ナル勾配ナキトキ
第八條 本線路ニ於ケル轉轍器ハ列車對向シテ通過スルトキ之ヲ鎖錠シ又ハ其ノ取柄ヲ支持スルコトヲ要ス但シ發條轉轍器ハ此ノ限ニ在ラズ
第九條 列車ハ出發合圖アルニ非ザレバ停車場ヲ出發スルコトヲ得ズ但シ特別ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第十條 列車ガ停車場ニ進入スペキ時刻ノ十分時前ヨリ到著スル迄ハ其ノ方面ニ於テ停車場外ニ亘リ列車又ハ車輛ノ入換ヲ爲スコトヲ得ズ
第十一條 列車ハ一時間四十五杆ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ズ但シ軌道及橋梁ニ對シ其ノ負擔力ヨリ大ナル影響ヲ與ヘザル場合ハ一時間六十五杆迄増スコトヲ得
 (註) 本條但書ハ氣動車運轉ノ如キ場合ヲ考慮セルモノナリ
第十二條 列車ノ行違ヲ爲ス場合ニ於ケル停車場進入速度ハ對向轉轍器通過ノ際一時間二十杆以下タルコトヲ要ス
第十三條 半徑六百米以下ノ曲線ニ於テハ列車ハ左ノ速度ヲ超エテ運轉スルコトヲ得ズ

曲線半徑(米)	速 度(一時間=付杆)	
	線路ノ分歧=附帶セザル曲線ノ場合	線路ノ分歧=附帶スル曲線ノ場合
600	60	45
500	55	40
400	50	35
300	45	30
200	35	25
100	20	15

曲線半徑本表ニ掲グルモノノ中間ニ在ル場合ノ速度ハ插入法ニ依リ算出ス

第十四條 閉塞區間ニ於ケル閉塞ハ票券式ト通信閉塞式ト併用ニ依ルヲ通例トス

附 則 (昭七 鐵令 十三)

本令ノ適用ニ當タリ既設線路ニシテ 現ニ一時間四十五杆ヲ超ユル速度ヲ以テ列車ノ運轉ヲナス區間ニ在リテハ當分ノ内軌道及橋梁ノ負擔力ノ範圍内ニ於テ第十一條ノ制限ヲ超過スルコトヲ得但シ一時間六十五杆ヲ超ユルコトヲ得ズ

索引

ア

- 悪走車 225
 安全装置 268
 安全側線 160, 177, 260

イ

- 異線進入 2
 1 元繼電器 275
 1 條鐵索式操縱裝置 267
 入換信號 254, 263
 インピーダンスボンド 273

ウ

- 腕木 252
 腕木式信號 249, 252
 腕木式信號の操縱裝置 266
 腕木式電氣信號 269

エ

- A.P.B.式閉塞裝置 319

- 驛順仕分 200
 驛順仕分線 216
 エスケープクラシク 266, 286
 掩護信號 254, 260
 エンジンピット 151
 遠方信號 254, 261

オ

- 應急連絡線 168
 橫配列(操車線群の) 218
 置換の法則(間接聯動の) 293
 押上線 227
 押上速度 227

カ

- 解錠器 310
 外線連絡 175
 延送線 185
 延送列車 185
 外側待避 162, 163
 開電路式制道回路 274

貸切扱貨物	120
貨車制動方法	203
貨車操車場	104, 199
貨車轉車臺	125
貨車の仕分	200
貨車の抵抗	230
片開分岐	28
片側直線附交叉	26
Cadis式自動制動器	206
可動轍叉	18
貨物上屋	126
貨物積卸場	122
貨物積卸線	120
貨物待避線	161
貨物停車場	104, 194
貨物取扱設備	119
貨物の種類	119
貨物用機械設備	126
渦流式カーリターダー	214
カーリターダー	204, 239
簡易調整機	267
簡易停車場	159
簡易聯動裝置	281, 282
間隔制動(貨車の)	239
間隔調整(貨車の)	239
緩急車線	217
緩衝裝置	270, 271
間接聯動	295
間接聯動の消去法	298
還送車線	217
緩動繼電器	276
キ	
機廻線	166
機械的操縱裝置	266
機械的聯動機	289
機械聯動裝置	281, 283
機關庫	148
機關車廻行線	166, 191
機關車返線	166
機關車轉向設備	141
軌條應力	56
軌條應力計算法第一	60
軌條應力計算法第二	75
軌條支承體	56
軌道應力	43
軌道回路	272, 273, 308
軌道貨車制動機	204

軌道係數	57
軌道繼電器	272, 275
軌道線輪	276
基本抵抗(貨車の)	231
客車收容線	166, 167
客車操車場	104, 185
客車留置線	166
給砂設備	132
給水設備	137
給水設備の間隔	140
給炭設備	128
給炭設備の間隔	138
曲線抵抗	234
曲線轍叉	24
曲線轉轍器	24
曲線よりの分岐	34
許容應力(軌道應力の)	101
距離制動(貨車の)	239
近郊旅客	106
キ	
空氣式カーリターダー	207
空氣轉轍器	18
空氣の抵抗	232
區間旅客	106
組替線	188
クランク	284
ケ	
K字轍叉	22
計重臺	127
Galesburg	229
検査線	190
コ	
高架式給炭槽	130
高架式石炭臺	128
交叉	21
交叉停車場	104, 180
交叉直線	25
小口扱貨物	120
跨線橋	117
護輪軌條	15
サ	
鎖錠	285
查錠	287
鎖錠錠	282

三位式信號	251
シ	
四位式信號	251, 323
G.R.S.式カーリターダー	211
視覺信號	251
色燈式信號	253
識別燈	259
指示電磁石	303
指示電流	303
自動開閉器	270
自動信號の制御	272
自動信號の動作回路	277
自動閉塞式閉塞裝置	323
自動閉塞信號	259
自動閉塞裝置	318
自動列車制御裝置	325
車側制動機	202
車内信號	324
車輛接觸限界標	157
車輛接觸防護回路	308
修繕車線	217
修繕線	191
終端給電式軌道回路	274

終端停車場	104, 166, 168, 170
縱配列(操車線群の)	218
重力操車場	202
出發信號	254, 255
出發線	187, 216
收容線	166
主分岐停車場	178
主本線	155, 196
衝擊應力	99
衝擊係數	100
衝擊の原因	99
乘降場	112
乘降場上屋	115
照查鎖錠	311
常置信號	249
常置信號の種類	254
常置信號の定位	263
消毒線	190
場內信號	254, 255
乘法の法則(間接聯動の)	296
徐行解除信號	251
徐行許容標	260
徐行信號	251
仕分線進入速度	236

索引

進行信號	250
信 號	249
信號扳所	283
信號回路	269
信號鋸	282
信號選別器	279
信號裝置	249
信號挺子	266, 269
信號復歸器	279, 280
進入速度	236
進路區分鎖錠	308
進路鎖錠	308
ス	
水壓式カーリターダー	210
スピーダートラック	203
スプリング軌條	18
スプリング軌條轍叉	18
スリップスライツチ	26
セ	
制御回路	270
正 鎖	292
制動沓	203
リ	
走行時間曲線	234
双 鎖	294
双信閉塞式閉塞裝置	320
双動轉轍器	300

側線 155
速度落差曲線 284

タ

第一出發信號 258
第一場內信號 255
對向轉轍器鎖錠裝置 285
對向分歧 2
對重付挺子 266
第二出發信號 258
第二場內信號 255
滯泊時間 198

待避線 155, 163, 196
脫線器 161, 300
脫線轉轍器 160, 177, 260, 300
タペット 289

單線に於ける閉塞裝置 316
斷續式自動列車制御裝置 325
端轍叉 21

チ

地下道 117
Tyssenhütte式カーリターダー 212
Zimmermannの公式 63

ツ

通過信號 262
通票式閉塞裝置 317
通票閉塞器式閉塞裝置 318
突落し速度 227, 235, 236
積換線 217

テ

停止信號 250
停車場 103
停車場の意義 103
停車場の種類 103
停車場の設備 105
停車場本屋 107

停車場前廣場 110
ディテクターバー 287
T.D.B.式閉塞裝置 819
手小荷物運搬設備 118
手信號 249
鐵管裝置 284
鐵管調整機 285
轍 叉 1, 14
轍叉角 1
鐵 索 284
鐵索調整鎖錠機 268
轍叉缺線 14
轍叉交點 14
轍査鎖錠 308
轍叉直線 14
轍叉構造 15
轍叉番號 3
デフレクションバー 284
Délivrance 204
テルフア 119
轉換裝置(轉轍器の) 12
電氣機械式カーリターダー 211
電氣機械聯動裝置 281, 304
電氣空氣信號 271
電氣空氣聯動裝置 281, 306
電氣鎖錠器 308
電氣鎖錠裝置 308
電氣式カーリターダー 214
電氣的操縱裝置(信號の) 269
電氣轉轍器 18
轉極器 276
電氣聯動裝置 281, 301
電磁ピンバルブ 271
轉車臺 188
轉轍鋸 12
轉轍器 1, 7
轉轍器轉換鎖錠裝置 285, 286, 301
轉轍器の構造 7
轉轍器の轉換裝置 12
ト
動作回路 270
道床係數 43
島狀乘降場 161
到着線 187, 215
燈列式信號 254
通拔式停車場 104, 158
特殊分歧器 25

渡線車	119
ドライビングバー	286
Trappes	229
取付曲線	2
Deloison式自動制動器	204
ドロップピット	152
鈍端可動軌條轍叉	18, 19
鈍端轉轍器	7
ナ	
内側待避	161, 163
Narbonne式カーリターダー	211
ニ	
二位式信號	251
2元繼電器	275
2條鐵索式操縱裝置	267
入射角	7, 9
ノ	
乘越可動轍叉	18, 20
乘越轍叉	161
乘越轉轍器	161
乘越分岐器	161

ハ

灰坑	128, 183
背向分岐	2
灰の處理設備	183
發雷信號	250
Hannauer	208
反鎖	293
ハンプ	202, 225
ハンプ操車場	202
ハンプ轉送線	226, 228
ハンプの縦断面	225
ヒ	
引上線	165, 191
引返設備	164
引返停車場	164
引出線	165
菱形交叉	21
鼻端軌條	14
票券式閉塞裝置	317
ヒールチョツク	16
ヒールレーザー	16

フ	
風向係數	233
複線に於ける閉塞裝置	319
複分岐	27
副分岐停車場	178
副本線	155
普通停車場	104
負のクランク	284
振分岐	31
Brenner Star	141
Frölich式カーリターダー	210, 220
分割區間軌道回路	274
分岐器	1
分岐停車場	104, 175, 177
分岐に附帶する曲線	2
分岐の計算	28
分岐の取付曲線	39
ヘ	
閉電路式	274
平面交叉停車場	182
Bäseler式渦流カーリターダー	214, 220
ヘムシユム	203
木	
保安設備	247
方向別仕分	200
方向別仕分線	216
方向別配線法	169, 179, 197
帽子型尖端軌條	9
保持裝置(電氣信號腕木の)	
	270, 271
保留回路	313
保留繼電器	313
保留信號	313
ボールト鎖錠	288
Bordeaux式自動制動器	206
Whitemoor	220
本線路(本線)	155
マ	
枕木の應力	43

枕木の支承體.....43

ミ

三枝分岐.....27

ム

無極繼電器.....275

ユ

U.S.S.式カーリターダー.....209

有極繼電器.....275

有效長(線路の).....157

誘導信號.....254, 262

行止式中間停車場.....170

行止式停車場.....104, 158, 166, 171

Union 式カーリターダー.....209

ヨ

翼軌條.....14

横枕木の沈下及び撓み.....47

Jordan 式カーリターダー.....209

ラ

螺旋解錠器.....310

ラツチ.....289

ラツチハンドル.....289

ライアルアーム.....284

リ

立體交叉停車場.....180

リード.....2, 22

リード曲線.....2, 22

留置線.....166, 188

兩開分岐.....30

兩側互線附交叉.....26

旅客停車場.....104

旅客取扱設備.....106

旅客の種類.....106

Lille 式自動制動弁.....204

臨時信號.....249

ル

ループ線.....141, 178

レ

列車及びその種類.....105

列車の滞泊時間(客車操車場に
於ける).....193

連續式自動列車制御装置.....327

聯動關係の種類.....291

聯動裝置.....281

聯動圖表.....299

聯動閉塞器式閉塞裝置.....320

聯絡停車場.....104, 175, 176

ワ

Y型線.....141, 173, 188

互線.....25, 300

互線附交叉.....26

ロ

ローカル線輪.....276

【索引終】

昭和17年4月30日 印刷
昭和17年5月15日—發行

鐵道工學
(下卷)

定價 4 圓



著者 稲田 隆
発行者 小川菊松
東京市神田區錦町1丁目5番地
印刷者 吉田了太
東京市王子區神谷町1丁目482番地
印刷所 東京印刷株式會社
東京市王子區神谷町1丁目482番地

東京市神田區錦町1丁目5番地
發行所 株式會社 新光誠文堂
會員番號 114506番
電話 神田 2126~9番
振替口座 東京 6294番

配給元 東京市神田區 日本出版配給株式會社
淡路町2丁目9番地